

東大を諦められない

— 50歳で東大生になる —

世界遺産に登録された国宝姫路城。兵庫県の西部に位置する姫路には、ふつうの主婦から東大生になった、学習塾・安政ゼミナールを主宰する安政真弓（56歳）がいた。塾の閉講日には、教室になるという自宅のリビング。ふたりの息子が成長した今、猫を愛し、陶芸で作品を生み出し、映画に宝塚歌劇にと出かけて、悠々自適な生活を送っている。

安政にとって、東大に入る意義とは何だったのだろうか。

「東大は私にとって、いつもかっこいい存在でした。だから野球少年が甲子園を目指すように、私も東大を目指した。それだけのことです。今、自分の経歴に、早稲田大学卒、東京大学卒と書けるのがとてもうれしい」